

保健センターだより

重症急性呼吸器症候群（SARS）について

WHOによると2003年5月15日現在、中国、香港などで、重篤な急性呼吸器感染症が流行しています。これまでに世界で、7,699名以上の疑わしい患者と598名の死亡者が報告されています。わが国では、日本滞在了台湾人医師の問題は未解決ですが、現在まで発生報告はありません。しかし、この感染症については、不明な点が多く、WHOも情報収集を行っている段階です。SARSによる健康危害を防ぐためにはどうしたらよいのでしょうか。以下は厚生労働省からの情報です。

SARSコロナウイルスは、SARSにかかっている人から周囲の人へ感染すると考えられています。主に、SARS患者が咳やくしゃみをした時のしぶきを介して感染します。感染の危険性が高いと考えられることは、患者の2m以内での比較的長い時間の会話や、SARS患者の看護・介護、同居、またはその体液や気道分泌物に直接触れる等の濃厚な接触です。

厚生労働省では、以下のようにお願いをしています。

流行が起きている地域から、帰国された方は、帰国後10日間にはできるだけ人と会わないようにしてください。また、やむをえず外出する際にはマスクをつけてください。また、流行が起きている地域から帰国後、10日間以内に疑わしい症状が現れた方は、最寄りの保健所にご相談下さい。

流行が起きている地域は、5月15日現在、北京、広東省、河北省、香港、湖北省、内モンゴル自治区、吉林省、江蘇省、山西省、陝西省、天津、台北、マニラ、シンガポール（トロント

を除外）です。疑わしい症状とは、38度以上の急な発熱及び痰を伴わない咳、呼吸困難です。

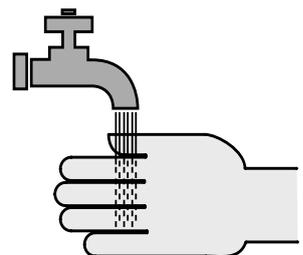
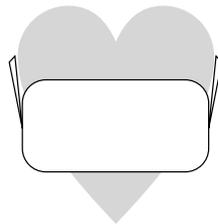
咳やくしゃみなどのしぶきによって感染するのでマスクによって防御できるといわれていますが、有効とされているのは、N95マスクという特殊なマスクなので日常生活では使用できません。最も良い防御法は、流行地への渡航を避けることです。不要不急の用事でない限り流行地域へ行かないのが第一の予防法です。

一般の人、疾患の発生とその対応方針を毎日更新している厚生労働省やWHOのホームページから情報が得られます。

<http://www.mhlw.go.jp/index.html> このページからWHOのホームページにリンクできます。

必要以上にこわがらなくても良いと思いますが、正しい情報を入手して、正しく対応してください。

医師 岡本 真由美



性感染症について

突然ですが、皆さんは「セーフセックス」ということばを聞いたことがありますか？

「セックスはリスクを背負っているものだ」という認識をもったことがありますか？

「何を今更?!」と思うかもしれませんが、よく考えてみてください。

今回のテーマは“性感染症”(STDまたはSTI sexually transmitted diseases またはinfection)です。「自分には関係ない!」と思う方も多いかもしれませんが、ここでもう一度きちんと復習しましょう。あなたのからだを守るのはあなた自身です。

STDは、性行為によって病原体が、膣、ペニス、肛門、口などの粘膜を介して侵入し、発症する感染症です。その種類には、性器クラミジア・トリコモナス症・性器ヘルペス・尖圭コンジローマ・梅毒・淋菌感染症などがあります。エイズも薬害エイズや先天性エイズを除く約77%が性的接触による感染といわれています。

STDに感染すると、男性の場合は尿道炎を起こし、排尿時に痛みや膿が出るなどの不快な症状を伴うことがあります。女性の場合では膣炎を起こし、おりものが増えたりかゆみがあったりします。全体的にみると男女とも比較的症状が軽いことが多いようで、それが感染を広める原因になっているのが現状です(性器ヘルペ

スだけは相当の痛みを伴います)。しかし、症状が軽いからといって治療しないで放置していると、子宮、卵管にまで病原菌が侵入し、お腹の中で炎症や癒着を起こす場合もあります。それが原因で将来、不妊症や流産へつながってしまう危険性もあります。

STDはここ数年若い人を中心に増加傾向にあります。セックスをしていれば、身に覚えがなくてもSTDに感染していたり、自分自身が感染源になってしまっている可能性はあります。不幸なことにSTDに感染したカップルの中には、責任のなすりあいになるケースもあります。しかし、どちらが先でも感染してしまったら“二人で治さなければならない病気である”ということだけはしっかりと認識してください。

STDの予防には、パートナー同士の協力と理解が必要です。互いの愛を確かめるためのセックス。その気持ちが本物であるならば、セックスの最初から最後までコンドームを正しく使うことはもちろん、STDに関する正しい知識を持つことも、あなたの愛情に匹敵するはずで、将来にも影響するという事を男性も女性もしっかりと自覚して、興味本意で性行為に走ったりすることが決してないように、理性ある行動をして欲しいものです。

看護師 佐賀 誠子

診療時間変更のお知らせ

教職員定期健康診断実施のため、多摩キャンパス、後楽園キャンパスの診療時間を下記の期間、13時30分から16時30分といたしますのでお知らせいたします。
なお、急患等の場合は、保健センターまでご連絡ください。

記

- | | |
|-------------|---|
| 1. 多摩キャンパス | 9月25日(木)、26日(金)、29日(月)、30日(火)
10月1日(水)、2日(木)、3日(金) |
| 2. 後楽園キャンパス | 10月7日(火)、8日(水)、9日(木) |

2003年度定期健康診断受診結果

学生定期健康診断は学校保健法に基づき、毎年4月初頭に校地別（多摩キャンパス6日間、後楽園キャンパス2日間）に実施しています。

本年度の受診結果は、下表のとおりです。

昨年度に対して2.4%増加しました。近年の傾向としては、2・3年生の受診率の向上があげられます。このことは、健康への意識の高まりとともに、就職協定の廃止に伴う現象と思われます。

厚生労働省が「結核緊急事態宣言」を発表し、結核は過去の病気ではなく、現在も発病者1日百数十名、死亡者3時間に1名としています。本学の健康診断で発見された結核の患者は昨年度1名、本年度1名です。結核は、薬剤の進歩により治療が容易になった反面、「薬剤」の乱用により「薬剤」に抵抗性を示し「薬剤」が効きにくい結核菌（多剤耐性菌）に侵され治療を難しくしている例もあります。

健康診断は、病気の予防・早期発見・治療を目的として実施されますが、受診しなかったために病気の発見が遅れ、気づいたときには快復しがたい段階まで進行し、休学を余儀なくされる学生も毎年いて、家族や友人に心配をかける例も見受けられます。

また、大学で発行する健康診断証明書（特に就職用）は、この健康診断を基に作成します。未受診のため発行されないケースの場合は、外部医療機関を受診し、余分な時間と高い証明書を払うことになります。

2003年度定期健康診断受診状況

学年	一部				二部			
	在籍数	受診数	受診率	前年比	在籍数	受診数	受診率	前年比
1年生	6,224	6,084	97.8%	0.3				
2年生	6,070	4,552	75.0%	3.1				
3年生	6,261	5,035	80.4%	3.5				
4年生	6,464	5,377	83.2%	0.8	58	45	77.6%	6.9
修延性	1,620	777	48.0%	6.8	353	91	25.8%	- 2.7
計	26,639	21,825	81.9%	2.0	411	136	33.1%	- 20.1

一部・二部合計

在籍数 27,050名 受診数 21,961名 受診率 81.2% 前年比 + 2.4

注1. 在籍学生数は、2003年4月末日現在（企画調査資料による）

2. その他の受診学生

大学院生 1,248名

科目等履修生等 72名

3. 受診者総数 23,281名

お知らせ

二次検査について

保健センターでは、健康で充実した学生生活をおくるため、該当する学生に対して、循環器、腎・泌尿器、呼吸器、内分泌・代謝と系統別に分類し、尿・血圧・心電図・胸部X線・超音波などの二次検査を実施しています。

この検査は、病気の予防、早期発見・治療のため必要とするものです。

本年度については、超音波検査を除き5月14日に実施した検査をもって終了しました。

保健センターで指定した日時に検査を受けていない学生については、外部医療機関にて検査を受けるよう通知します。

なお、外部医療機関での検査には、紹介状・報告書など必要書類があるので保健センターに来所して説明を受けてください。

健康記録カードの提出について

健康記録カードは、学生諸君の在学中の健康診断記録及び診療の際に参考にする重要な「カード」です。

健康記録カードは、定期健康診断終了時に提出する事になっていましたが、未提出者は下記の手続きを行ってください。

なお、未提出のまま放置すると、就職・奨学金・留学等で必要な健康診断証明書は発行できません。

記

1. 提出場所 多摩キャンパス 2号館2階 保健センター事務室
後楽園キャンパス 1号館1階 保健センター理工学部分室
2. 提出に際しての注意
 - ① 健康記録カードA面及びB面の必要事項をすべて記入すること。
 - ② 健康記録カードA面の「尿検査・血圧」は、医療機関で証明を受けること。

体内脂肪計について

保健センターでは、学生・教職員の健康管理の一環として、体内脂肪計を設置しています。体内脂肪計は、体内に貯蔵されている脂肪（体脂肪）を測定し、外見では見つからない肥満の発見や、行き過ぎたダイエットを防止する効果もあります。体脂肪の大部分は皮下に蓄積しますが、内臓の周囲に蓄積するものもあり、糖尿病、高脂血症、冠動脈硬化症、高血圧などの生活習慣病をおこす原因ともなっています。ご自身の健康チェックに、体内脂肪計を下記の要領で利用するようおすすめいたします。

記

1. 場 所 多摩キャンパス 2号館2階 保健センター
後楽園キャンパス 1号館1階 保健センター理工学部分室
市ヶ谷キャンパス 1号館1階 保健センター市ヶ谷キャンパス分室
2. 時 間 診療日の 10:00～11:00 13:00～16:00
(ただし、休業期間中は別途掲示します。)
3. 受 付 診療室

